

もの忘れが気になるのは、老人だけでは  
ない。若い人でも、認知症の不安を抱え込  
む人もいる。

38歳のK子さん。すっかり消耗した顔  
で、「もの忘れがする。若年性認知症で  
は？」と怯えている。

仕事中に、同僚から話しかけられた。な  
にか話したことは覚えているが、何を話し  
たかはよく覚えていない。後で、イヤな顔  
をされた。似たようなことは何度かあり、  
仕事のミスも増えたように思うと嘆く。で  
も、自分から認知症を疑って来院する患者  
さんは、認知症ではないことが多い。K子  
さんがいう「もの忘れ」というのも、認知  
症によるものではなく、認知症とは記憶の  
種類が違う「ワーキングメモリ」の問題で  
はないだろうか？

ワーキングメモリとは、人が何かをする  
時に、その作業に必要な情報を一時的に記  
憶に上げたり、消したりする能力のこと  
だ。それは、前頭葉の前頭前野の働きによ  
る。不要な情報なら、記憶されることな  
く捨てられる。同僚の話の内容は、記憶でき

なかったのではない。ただ、記憶されな  
っただけ、ということもありうるのだ。

もし、K子さんが心配するようなアルツ  
ハイマー型認知症なら、どうなったか？側  
頭葉にある海馬の働きが落ちるので、同僚  
と何を話したかだけではなく、話をしたこ  
とさえ忘れていたのではなからうか。そし  
て、K子さんに記憶力のテストをしたが、  
異常はなかった。頭のMRI（磁気共鳴画  
像）の検査でも、脳の萎縮など、認知症を  
疑わせる異常もみられないのであった。

ワーキングメモリの機能は、ストレスや  
睡眠不足、薬物や全身状態などに影響され  
るという。ひとり悩んでいるのは、不安は募  
る。脳の働きに良いワケがない。で、受診  
が遅くなった理由は？と聞くと、「ワッ  
ンが怖そうだったから」だって。なんと  
いうことか。

（石黒修三iiiしへろクリニック・脳神経

外科医…211北國新聞掲載）